

レジメンcode:	C16-39	備考
適応がん種:	胃癌	
レジメン名:	Pembrolizumab+カペシタбин	
間隔:	3週間	

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	キイトルーダ	200	mg/body	点滴(30分)	d1
CAP	カペシタбин(ゼローダ)	[*]	mg/m ²	内服(朝夕食後)	d1夕～d15朝

*C16-38:Pembrolizumab+CAPOX療法後の維持療法

[*]: 下表を参考

day1

1) 生食	50ml	1 本	ルート確保
2) キイトルーダ		200 mg/body	
生食	50ml	1 本	主管① 点滴 30分 インラインフィルター必須
3) 生食	50ml	1 本	フラッシュ用

〈所要時間 約1時間〉

day1夕～day15朝

1) カペシタugin(ゼローダ)	[*] mg/m ²
	内服 朝夕食後

[*]

体表面積	投与量
1. 36m ² 未満	1,200mg(4錠)/回 【2,400mg(8錠)/日】
1. 36m ² ～1. 66m ² 未満	1,500mg(5錠)/回 【3,000mg(10錠)/日】
1. 66m ² ～1. 96m ² 未満	1,800mg(6錠)/回 【3,600mg(12錠)/日】
1. 96m ² 以上	2,100mg(7錠)/回 【4,200mg(14錠)/日】

*適応

: 化学療法歴のないHER2陰性の治癒切除不能な進行・再発の胃腺癌または食道胃接合部腺癌

: PD-L1発現率(CPS)により異なる傾向が示唆されている。

【文献】

国際共同第Ⅲ相試験【KEYNOTE-859 Lancet Oncol 2023;24:1181-95:(PMID:37875143)】

【キイトルーダ】

*甲状腺機能障害、下垂体機能障害及び副腎障害があらわれる事があるため、投与開始前及び投与期間中は定期的に内分泌機能検査を実施すること。

◎検査セット登録あり：場所 カルテ→(検体)→(特殊セット)→(免疫チェックポイント初回)(免疫チェックポイント2回目～)

*インラインフィルター(0.2～5 μm)を使用する。

*調製時、又は希釈後に振盪により微粒子が生成される可能性があるため、バイアルは振盪せず、激しく攪拌しない。

*生食又は5%ブドウ糖に溶解する。同一点滴ラインを使用して他の薬剤を併用同時投与しない。

*希釈後、25°C以下で6時間以内または2～8°Cで合計96時間以内に使用する。

*有害事象(肺、肝、内分泌障害、皮膚、胃腸、腎、神経関連など)対処アルゴリズムを参照する。

*臨床試験での検査スケジュール、投与延期または休薬基準を参照する。